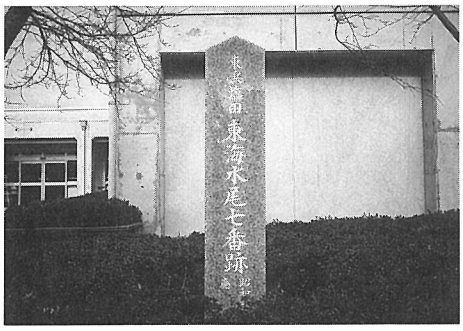
文化財をたずねて No. 9

御崎地区の文化財めぐり

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋81　TEL 43-6858）

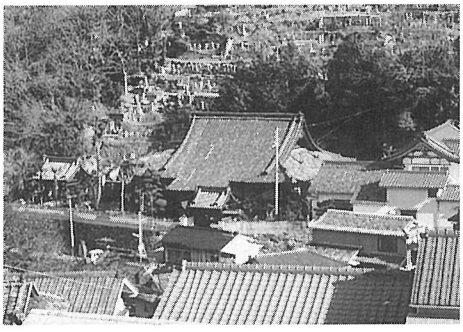
御崎地区の歴史は古く、周辺の遺跡から縄文時代後期（約4,000年前）に溯る。伊和都比売神社は、古社で市内唯一の式内社である。塩田開発は、池田時代から手掛けられ、浅野時代に大きく発展した。当時は新浜村と呼ばれ、藩領外から多くの塩民たちが移住してきた。塩業で財をなした田淵家の庭園はみごとなもので、国の名勝に指定されている。新浜村では男たちが塩田で働く一方で、女たちは赤穂緞通を織って地場産業を築き上げた。赤穂緞通は日本３大緞通の一つとして数えられ、その織り方技法は赤穂市無形文化財に指定されている。そのほか御崎では井戸が多いことも特徴で、それにまつわる大師信仰が盛んである。古くから赤穂御崎は風光明媚なことでよく知られ、周辺の島々や沿岸部は瀬戸内海国立公園に指定されており、旅館・ホテルをはじめとして研修・宿泊施設等が建ち並び、花見・海水浴・温泉と四季を通じて賑わいを見せる。



東浜塩田東海水尾七番跡石碑

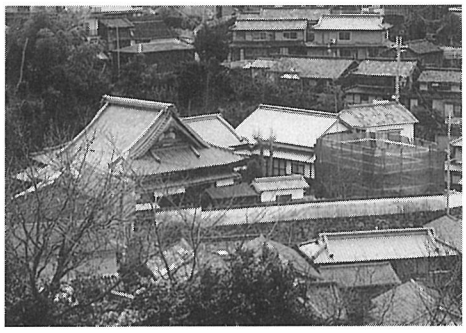
①東浜塩田東海水尾七番跡石碑

池田時代に開拓された東海水尾などの塩田に加え、浅野時代には三十郎塚・中塚・元沖塚・大塚・十三軒塚・唐船塚等の塩田が新たに約100町歩(100ha)開拓された。現在では宅地化が進み、御崎公民館正門横の東浜塩田東海水尾七番跡と赤穂海浜公園北駐車場入口付近の小公園にある東浜塩田元沖水尾塚七番跡の石碑を残すのみとなっている。また、東浜公園には御崎土地区画整理事業の完了記念モニュメントとしてモザイクタイル張の塩田図や風景画があり、当時の塩田の様子を垣間見ることができる。


常光山廣度寺

②常光山廣度寺

浄土宗の寺院で、新浜村の開拓に伴い明暦３年(1657)日想庵が開創され、延宝２年(1674)に加東郡浄土寺中の海印寺を引いて廣度寺となったものである。開山は祈祷によって干ばつを救ったといわれる順誉孤念である。元治元年(1864)～明治４年(1871)には、僧成元によって読書を中心とした寺子屋が開かれた。本堂は、大石内蔵助が開城の残務整理に通っていた赤穂城下町に所在した遠林寺にあった本堂を移築したもので、この遠林寺を描いた絵馬も残されている。


白雲山光徳寺

③白雲山光徳寺

浄土真宗大谷派の寺院で、本尊は阿弥陀如来である。寛文７年(1667)に当初は仰西寺として創建されたが、延宝２年(1674)に東有年の黒沢山光明寺中の光徳寺を移転し、寺号を光徳寺と改めた。開山は玄智。寝殿造の本堂は、享保７年(1722)に東有年の黒沢山光明寺中の光徳寺にあった堂を移築したもので、２階建の楼門・隅楼は寛保２年(1742)に建立されたものである。また、現在庫裡となっている書院は、江戸時代前期のものといわれている。

①東浜塩田東海水尾七番跡石碑　②常光山廣度寺　③白雲山光徳寺　④補陀山正福寺
⑤弘法さんの井戸と腰掛け岩　⑥田淵氏庭園　⑦赤穂市立田淵記念館　⑧伊和都比売神社
⑨大石名残の松　⑩赤穂瀬戸内窯　⑪尾崎・大塚古墳　⑫尾崎・猪壷谷遺跡
⑬弁慶の止め岩　⑭御崎・大塚遺跡　⑮旧岡本家屋敷跡
⑯赤穂市立海洋科学館・塩の国（県立赤穂海浜公園）

補陀山正福寺

④補陀山正福寺

曹洞宗の寺院で、正保３年(1646)浅野長直が城下に一寺を建立したことに始まる。寛文12年(1672)花岳寺内に移されたが、元禄14年(1701)良雪和尚が現在地に良雪庵を建て、宝永３年(1706)に寺号を正福寺とした。良雪と大石内蔵助による「二良の対局」の寺として有名で、対局に使われた囲碁や、大石内蔵助・大高源吾といった数々の義士書状が残され、浅野家３代の位牌も安置されている。また、明治６年(1873)に思誠小学校が当寺を仮校舎として開校した。

弘法さんの井戸と腰掛け岩

⑤弘法さんの井戸と腰掛け岩

弘法大師が巡礼の途中に岩に腰を掛け、水を飲んだとされる井戸である。御崎では大師信仰が盛んで、東寺地区に２カ所、東海地区・西山地区・西寺地区・三崎地区・山手地区にそれぞれ１カ所ずつ、計７カ所の地区の大師堂があり、毎年４月21日には賑わいを見せる。御崎はもともと水に不自由な場所であり、各地区ごとに共同の井戸をもっていたが、近代化とともに井戸が使われなくなり、住民の共通の拠り所として大師信仰が始まったと考えられている。

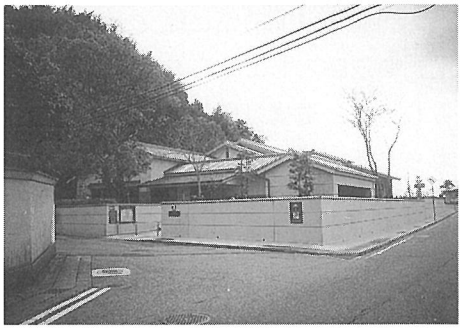
⑥田淵氏庭園

田淵家はもと尾崎にあり、川口屋と称して塩田・塩問屋を営んでいたが、寛文13年(1673)現在地に移り住んだ。歴代赤穂藩主の御成りがあり、平地には御成りの間・上段の間を備えた数寄屋造りの書院に面した池庭がある。山腹には春陰斎・明遠楼といった茶亭と変化のある地形を利用して露地が構成されている。庭園様式は草庵式茶庭・池泉鑑賞式庭園で、庭園の面積は約1,530㎡である。作庭時期は江戸時代中期であり、昭和62年(1987)に国の名勝に指定された。(常時公開はされていません)

田淵氏庭園

⑦赤穂市立田淵記念館

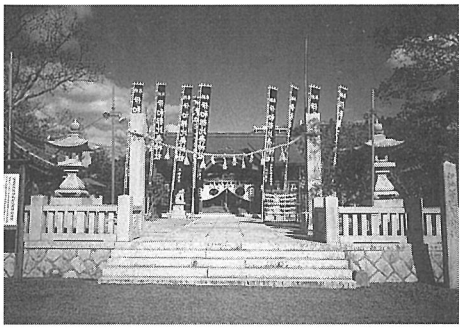
平成6年(1994)田淵家より美術品・古文書類が赤穂市に寄贈された。これを契機に平成9年(1997)開館した。寄贈された美術品は日本画・書・茶道具・婚礼道具など多岐にわたり、特に茶道具は数も多く、季節感を大切にした展示が行われている。内部には露地と14畳の和室があり、展示室として利用するとともに茶室としての機能も備えている。ロビーでは茶道関係の雑誌・会報誌の閲覧、ビデオ鑑賞ができ、茶道文化に親しめるフロアーとなっている。(休館日は火曜日。☎0791-42-0520)



赤穂市立田淵記念館

⑧伊和都比売神社

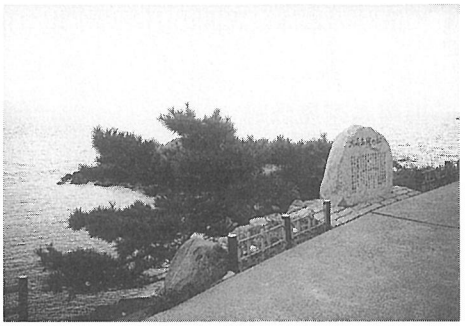
市内唯一の式内社で、祭神は伊和都比売神である。もとは神社前沖の大園（現在灯台のあるところ）と呼ばれる御前岩（八丁岩）の上にあったが、天和3年(1683)浅野長矩が現在地に移した。大石名残の松の前にある畳岩（鷗護岩）が重要な意味をもっていたとされ、早くから海上交通に重要な役割を果たす位置に鎮座していた。境内には恵比須神社・金毘羅神社・塩釜神社が合祀されている。本殿前にある文化13年(1816)銘の狛犬は銘文のあるものでは市内最古のものである。



伊和都比売神社

⑨大石名残の松

大石内蔵助は城を明け渡し、元禄14年(1701)6月半ばに妻子を新浜港より大阪に送った。自らも同年6月25日に京都山科に向けて同港から出立した。このとき船上から幾度となく巌頭に立つ老松を見返りつつ、赤穂への名残を惜しんだのがこの松と言われており、人呼んでこれを「大石名残の松」と呼ばれている。現在の松は2代目となったが、みごとな枝振りである。平成10年(1998)に赤穂ライオンズクラブ認証35周年として、この大石名残の松の記念碑が設置されている。

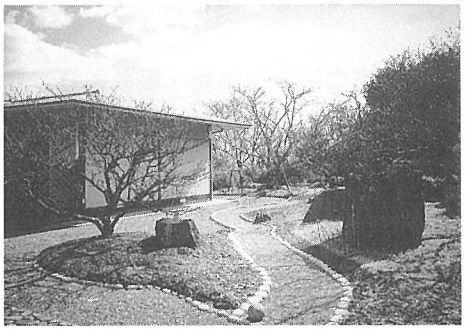


大石名残の松

⑩赤穂瀬戸内窯

雲火焼は、嘉永5年(1852)に大嶋黄谷（九郎次）によって考案されたもので、新土手焼とも呼ばれた。独特の光沢のある肌色の焼き物で、釉薬を施さず、夕日に映える雲の景色のような赤と黒の窯変が特徴的である。残された作品には茶入・水指・香合・手焙・火入・灰器などの茶器が多い。雲火焼は黄谷以降後継者がなかったが、ここ赤穂瀬戸内窯では雲火焼の再現がなされている。

（展示室の見学は電話連絡が必要。☎0791-43-8080）



赤穂瀬戸内窯

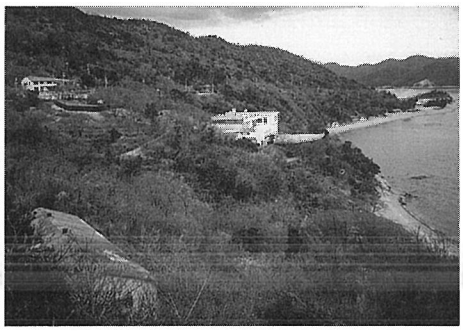
⑪尾崎・大塚古墳（市指定文化財）

直径約20mを測る円墳である。内部主体は両袖の横穴式石室で、羨道部の長さ4.5m、幅1.3m、高さ1.25m、玄室の長さ4.1m、幅2.1m、高さ2.5mを測る。出土遺物には須恵器蓋杯・甕・瓶・金環などがあり、土器の年代から6世紀後半頃に築造されたものである。赤穂市の南部地域の後期古墳としては最大規模で、石室も立派であることから南部域の豪族の墓であったと考えられる。

尾崎・大塚古墳

⑫尾崎・猪壷谷遺跡

昭和30年(1955)頃に縄文土器が採集され、縄文時代後期（約4,000年前）の遺跡として知られるようになった。数回にわたり発掘調査が実施されたが、遺構は確認されず、遺跡の本体は谷の上部の山頂にあると考えられる。遺物には縄文土器深鉢・浅鉢などのほか、石鏃・石刃・石匙・石皿・石錘といった石器類も数多く出土している。


尾崎・猪壷谷遺跡

⑬弁慶の止め岩

山の南斜面に横たわる幅5m、高さ 2.5mの巨石である。古くから伝わる昔話で、薪拾いにやってきた村人めがけて山頂からこの岩が転がり落ち、下敷きになる寸前に弁慶がこの岩を支え止め、村人を救ったとされており、岩に残る窪みがそのときの弁慶の両手と右スネの跡だと語り継がれている。(『赤穂の昔話』第2集)

弁慶の止め岩

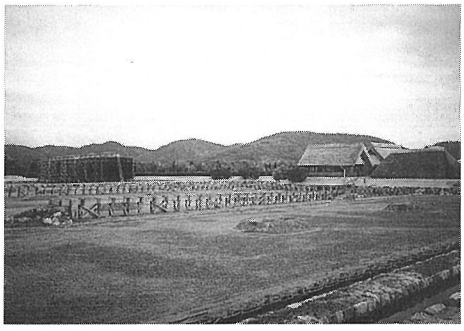
⑭御崎・大塚遺跡

御崎から尾崎にまたがる大塚から3点の縄文時代の石鏃（サヌカイト製）が採取されている。これまでに数箇所の発掘調査が行われ、古墳時代の須恵器杯身・土師器・中世の須恵器・土師器片などが出土しているが、明確な遺構は確認されていない。周辺の万五郎谷からも石鏃は採集されており、遺跡の本体は周囲の山々の平坦な頂上付近にあると考えられる。

旧岡本家屋敷跡

⑮旧岡本家屋敷跡

岡本善兵衛はもと荒井（高砂市）で塩業を営んでいたが、東浜塩田開拓に伴って正保3年(1646)新浜村に移り住んだ。以後、姫路藩領内から入浜塩田の新技術を身につけた塩民たちが移住し、新塩田の開拓によって新浜村は大きく発展していった。新浜村で財をなした岡本家も、現在ではその跡地が残されるのみとなっている。この屋敷跡は、赤穂森藩時代に津山から移住した岡本家のものという説もある。


赤穂市立海洋科学館・塩の国

⑯赤穂市立海洋科学館・塩の国（県立赤穂海浜公園）

県立赤穂海浜公園内にある赤穂市立海洋科学館では、瀬戸内海と塩・海洋科学・赤穂の自然科学に関する資料が展示されている。付属の塩の国では、揚浜式塩田・入浜式塩田・流下式塩田と製塩施設が復元されており、釜屋での製塩作業の実演や、入浜式塩田での浜引き・集砂・潮かけなどの浜作業の体験、製塩実習が楽しめる。(休園・休館日は火曜日。塩の国での体験実習は、海洋科学館入館者のみ。☎0791-43-4192)